第６学年社会科学習指導案

１　小単元名「不平等条約の改正をめざせ！
～治外法権と闘った陸奥宗光～」

２　指導観

○　子どもの実態からみえたもの

本学級の子ども達３４名へのアンケートの結果，歴史学習が「好き」「どちらかといえば好き」と答えた子どもが３０名おり，全体的に興味が高い。とくに，歴史上の人物に興味を持っている子どもが多く，家庭学習で好きな人物について調べてくる子どもも少なくない。

１学期「米づくりのはじまりと国の統一」では，稲作の伝来をきっかけに社会が大きく変化したことを，また，「武士による政治のはじまり」では，元寇の際「もしも２度の暴風雨がなかったら今の日本はどうなっていたか」を考えた。さらに，身近な地域に石塁などの歴史的に重要な意味を持つ遺構や遺跡があることも学習した。これらの学習を通して，現在の自分たちの生活と歴史的事象につながりがあることを捉えることができる子どもも増えてきた。前小単元「新しい時代の夜明け」では，明治の世の中になったことを，・大久保利通を中心とする明治新政府の国づくりという視点で追究した。追究後の交流活動では，明治新政府は，廃藩置県や四民平等，富国強兵などのさまざまな改革を進めていき，外国におとらない国づくりをしていこうと努力を重ねていたことを捉えている

学習の進め方においては，歴史的事実をもとに学習問題をつくり，自分なりの予想をもって問題解決学習を進めていくこともできるようになってきている。しかし，歴史学習への興味が高いにも関わらず，調べたことをまとめる活動になると，２１名もの子ども達が「どちらかといえば好きではない」「好きではない」と答えている。子ども達にとって魅力のある教材を用いたり，教材との出会わせ方を工夫していくことで，子ども達の追究意欲を最後まで持続していくことができると考える。

○　教材の価値，意義

当時の日本は法整備や軍事力，産業などの面で欧米諸国より遅れていたため，国際社会において低い扱いを受けていた。さらに当時は欧米の植民地政策によるアジア進出が進んでおり，日本にとって切迫した状況であった。だからこそ明治政府にとって，国力を向上させて不平等条約を改正し，欧米と比肩できる地位を築くことは，非常に重要な課題であった。

そのような中，明治初頭に起きた少女暴行事件，1886 年和歌山沖におけるノルマントン号事件，1892 年に新潟市で起こったウェブスター事件，同年の瀬戸内海における千島艦事件など，治外法権を持たないことにより日本人にとって非常に理不尽な事件が後を絶たず，国民の怒りは高まった。不平等条約の改正は，日本国民にとっても大きな悲願であった。

このような不平等条約が改正できた理由は，大きく２つある。ひとつは陸奥宗光の交渉術である。歴代外務大臣が出来なかったことを，陸奥宗光は見事やってのけることができた。それは，交渉相手を，15 カ国の中で条約改正に最も強硬に反対していたイギリスを選んだことや，イギリスに譲歩しながら日本の要求を通して行くなど，絶妙な国際感覚を駆使した粘り強い交渉によるものであった。陸奥宗光はそのような国際感覚を養うために，坂本竜馬のもとで外国との関わり方を学んだり，４０歳にしてイギリスに留学し，欧米の政治の仕組みを熱心に学んだりする姿など，よりよい日本をつくるために大変な努力していた。

ふたつ目は，国力が充実して諸外国に認められる条件が揃っていったことである。

・内政の充実：大日本帝国憲法の制定，選挙，国会の仕組みを確立など
　（鹿鳴館などによる極端な欧化政策の失敗等により，まずは国内に目を向けた）
・軍事力の強化：日清・日露戦争で強国に勝利・賠償金や新たな領土を手に入れる
　（徴兵制度や富国強兵策などが軍事力強化の基礎にある）
・産業の発達：軽工業（富岡製糸場など：生糸輸出世界一）から重工業（八幡銑鉄所など：日清戦争賠償金の一部使用）へ
　（明治新政府の富国強兵策の一環である官営工場を基盤とする）

陸奥宗光の交渉術に加え，国力が充実して世界に認められていったことにより，念願の不平等条約の一

部改正を実現することができたのである。

歴代外務大臣の中で陸奥宗光ただ一人が，外務省敷地内に銅像が建てられていることが表しているように，その功績のすばらしさが現在も称えられている。しかしその業績のみならず，よりよい国づくりのために大変な努力をし，その努力が念願の「治外法権の撤廃」という形で結実していく姿に，子ども達は共感を覚えていくであろう。

陸奥宗光を通して，上記のような不平等条約が改正できたわけについて追究していくことで，厳しい国際環境に置かれていたにも関わらず，先人の工夫や努力により国力が充実し，国際的地位が上昇していったことを共感的に理解することができるであろう。また，ノルマントン号事件などの事実から学習問題をつくることは，同じ日本国民として治外法権に対する理不尽さや憤りの気持ちに共感することができ，追究の意欲も高まっていくことであろう。

以上の点から，本題材は価値があるものと考える。

○　指導・支援の方法

（つかむ段階）

・ノルマントン号事件の風刺画を読み取り，同じ日本人として当時の人々の憤りを共感的に理解できるようにする。さらに千島艦事件など，治外法権を認めているために日本人にとって理不尽な結果となった４つの事件の概要を知り，不平等さに対する思いを一層膨らませ，追究への意欲を充分に高める。

・「改正したい」という考えになった子ども達に，条約改正までの年表のうち青木周蔵外務大臣までを提示し，５人の外務大臣が条約改正に失敗しているという現実から，「改正したいのにできない」という，国民の思いと矛盾した事実に出会う。改正できなかった理由について交流し，考えを深める。

・「改正は難しい」という考えになっている子ども達に，陸奥宗光が治外法権の廃止に成功できたという事実を出会わせ「陸奥宗光が条約を改正できたわけは何だろう？」という疑問を喚起させることで学習問題をつくる。

・学習問題の答えを予想する際，教師がイギリス政府の立場に立って，なぜ日本と対等な条約を結べないのかを，日本が欧米よりも劣っている事実を根拠に伝える。その事実や条約改正までの年表をもとにして，予想の根拠を持ちやすくする。

・予想の交流をし，各自調べることをより具体的なものにする。

（さぐる段階）

・追究の視点毎に，課題別の追究活動を行う。

・追究活動が停滞していたり，調べる視点がずれている子どもには，教室に掲示しているこれまでの資料や，陸奥宗光の年表などのヒント資料を提示したり，学習問題の答えにつながるような問いかけで思考を整理するなどの支援をしていく。

（まとめる段階）

・事前に交流の際の質問や意見を考える時間を設定し，どの子どもも発言できるようにしておく。

・子ども達の学習問題に対する考え・質問や意見を把握・類型化して構想図を作成し，学習のねらいに迫るような論点について話し合いが進むように方向づけたり，意図的指名を行ったりする。

・考えの根拠となる資料を提示しながら発表できるようにする。

・交流を通して，国内と国外の関連に着目できるようにする。

・交流の集約に向けて，国内外の事実を板書に年代順に並べ，明治政府がまずは内政を充実させてから国外へ進出していこうとしていた順序性を視覚的に捉えさせる。

３　単元構成図

陸奥宗光が治外法権を撤廃することができたのは，まずは国内の政治の仕組みを整えつつ，軍事力の高まり，産業･科学の発達などにより日本が世界に認められる国になっていったという社会背景がある。さらに，よい日本をつくるために欧米に学び，その経験を生かして世界の情勢を鋭く読みながら，歴代外務大臣の努力を受けてねばり強い交渉を重ねたからである。

（人物のはたらき）　　（条件面）

岩倉使節団以来，歴代外務大臣らが粘り強い交渉を重ねてきた。陸奥宗光は，坂本竜馬との日々や欧米での猛勉強により国際感覚を磨き，鋭い国際情勢でイギリスと交渉を進めていった。 **（陸奥宗光らの努力）**	我が国は，アジアで初の憲法をつくったり，選挙や国会の仕組みを整えたりして，欧米をお手本にしながら政治の仕組みを整えていった。その背景には，自由民権運動を通した全国の人々の願いがあった。 **（国内の政治の仕組みが整う）**	我が国は，大国である清やロシアに勝利して世界から注目された。また，その講和条約で賠償金や領土を手に入れたりして，欧米の国々に日本の軍事力を知らしめることができた。 **（軍事力の向上）**	明治新政府の富国強兵政策による官営工場を中心に，はじめ軽工業が，後に重工業が発展した。生糸の輸出量が世界一になるなど，世界の産業に大きな影響を与えるようになった。 **（産業の発達）**
○歴代外務大臣らの尽力 ・岩倉使節団 ・寺島宗則 ・井上 馨 ・大隈重信 ・青木周蔵 ○陸奥宗光 ・鋭い国際感覚 (坂本竜馬の海援隊, 欧米留学で学んだ経験) ・イギリス(ロシアのアジア進出をけん制したい)を交渉相手に選ぶ ○小村寿太郎 ・不平等条約の完全撤廃 （関税自主権の回復）	○大日本帝国憲法の発布 ・アジアで初の憲法 ・伊藤博文･金子堅太郎らがドイツ憲法を参考にして起草 ○国会の開設 ・自由民権運動の広がり (板垣退助･大隈重信ら) ・初の選挙 （選挙権は 15 円(現在の 15 万円程度)以上納税している男性のみ） ・第１回帝国議会	○日清戦争 ・朝鮮をめぐる争い ・大国清を破る ・下関条約 多額の賠償金 (約３億１千万円) 領土の拡大 (台湾･リアオトン半島) ↓ ・三国干渉 （ロシア･ドイツ･フランス） ○日露戦争 ・大国ロシアを破る ・東郷平八郎の活躍	○軽工業の発達 ・富岡製糸場 (若い女工の労働力･過酷な労働･低賃金) ・生糸輸出量世界一 ○重工業の発達 ・八幡製鉄所 （日清戦争の賠償金の一部） ・日露戦争で必要な鉄も産出

４　目標

○　不平等条約の改正について関心をもち，陸奥宗光が不平等条約を改正できた理由について意欲的に追究することができる。（関心・意欲・態度）

○　陸奥宗光が不平等条約を改正することができた理由について，国内の政治の仕組みが整ったこと・軍事力の強化・産業･科学の発達などによる国力向上と，それを背景と陸奥宗光の鋭い国際感覚や努力と関連させて考えることができる。（思考・判断）

○　陸奥宗光が不平等条約を改正することができた理由について，自分の課題を解決するために必要な情報を選び，自分の考えを具体的事実に基づいたものに高め，まとめたり，話し合ったりすることができる。（表現を含めた資料活用能力）

○　立憲政治の確立・軍事力の強化・産業･科学の発達などにより，我が国の国力が向上し，国際的地位が高まったことを理解することができる。（知識・理解）

５　指導計画（６時間）

段階	主な学習活動と内容	留意点（○）及び評価基準（※）	配時
つかむ	1　ノルマントン号事件の風刺画と条約改正までの年表から条約の改正について関心を持ち，学習問題をつくる。 （１）ノルマントン号事件について知る。 ノルマントン号事件の風刺画 （２）少女暴行事件・ハートレー事件・千島艦事件・ウェブスター事件について知る。 （３）なぜ，こんな判決になったかについて話し合う。 2　条約改正までの年表をもとに学習問題をつくる。 （１）青木周蔵外務大臣までの改正失敗の事実を確認し，なぜ改正できなかったのかを考える。 年表①(条約改正までの年表) （２）陸奥宗光による治外法権の廃止の交渉が成功した事実を知り，学習問題をつくる。	※　ノルマントン号事件の風刺画や条約改正までの年表から意欲的に事実を読み取ることができる。（関心･意欲･態度） ○ 治外法権を持たないことに対する理不尽さや憤りの気持ちを充分に高め，追究への意欲を高める。 ○ 歴代外務大臣の努力と失敗から，改正の難しさを理解できるようにする。 ※　治外法権を３６年も撤廃できなかったこと，陸奥宗光がそれを実現したことから，学習問題をつくることができる。（思考･判断）	1 (本時)
	学習問題 **陸奥宗光が，不平等条約を改正できたわけは何だろう？**		
	2　学習問題に対する予想を立てて交流し，追究の見通しを持つ。 （１）陸奥宗光の立場に立ち，イギリス政府に対して言いたいことを考える。 ・不平等な条約を，早く改正してほしい！ ・交渉が失敗続きである事実(年表①より) ・日本には憲法がないという事実 ・薩英戦争を想起させ，軍事力が弱いという事実 など，予想につながるような事実を提示する ・日本はとても弱い立場だったんだね…。 ・陸奥宗光が，よっぽどすぐれた人物だったのかな？ ・日本の立場がよくなっていったのかもしれないよ （２）条約改正までの年表と提示した資料とをもとに，学習問題に対する予想とその根拠を明らかにして，学習ノートに書く。 （３）自分の予想を小グループで交流する。 （４）学習問題に対する予想と根拠を出し合う。	○ 子ども達：陸奥宗光 教師：イギリス政府 の立場に立ち，条約改正にあたり，いかに日本の立場が弱かったかを実感させる。 ○それぞれの事実が，学習問題の答えのヒントにもなっており，予想を持ちやすくする。 ○予想に根拠を持たせるために，年表に国内外の情勢を付け加えておく。	1

～子どもの予想～

・陸奥宗光の交渉の仕方にひみつがある	・アジアで最初の憲法をつくって認めてもらったから ・生糸の生産高が世界一になったから	・日清戦争や日露戦争などで勝利したから ・イギリスと同盟を組んだから

○

～追究の視点～

A 陸奥宗光の人物や業績 → 陸奥の生い立ちや交渉の仕方を調べよう

B 国内の政治や産業の発達を認めてもらえたから → 政治の仕組みで何が新しくなったのかや，どんな産業なぜ盛んになったのかを調べよう

C 外国との関わり方を認めてもらえたから → 2 つの戦争で勝利したあと日本はどうなったのかや，なぜイギリスと同盟を組んだのかを調べよう

（５）学習問題の予想について交流する

○別の視点の予想に対し質問や意見を交換し，これから調べることがはっきりさせる。 1

／さぐる

３　予想をもとに，不平等条約を改正することができたわけを追究する。

（１）資料をもとに調べ，考えとその根拠を表現物にまとめていく。

（２）同じ視点のグループで交流し，質問・意見交換をしながら自分の考えを強化したり修正したりする。

○調べた事実と条約の改正とがどのように結びつくのかを常に意識するよう声かけをする 2

○ 資料（写真・グラフ・図など）と，資料からわかることを表現物にまとめていく。

／まとめる

４　調べたことから自分の考えをつくり，友だちと交流する。

（１）それぞれの視点の発表をもとに，全体交流をする。

・国外のことと外国との関わり方って，つながっているんだね

・それまでの政府の努力があったから，陸奥の努力が報われたんだね

○ 調べてきたことに対する交流をし，事実同士の関連性気付いていく。 1

（２）事実相互の関係性を再度見直し，学習問題の答えをまとめる。

・明治政府は，まずは国内のことに力をいれていたんだね

・政治の仕組みが整っていたから，戦争にも勝ったのかもしれない

・でも，陸奥宗光の努力も重要だったと思うよ

○ 事実同士の関連性についてさらに詳しく見るために事実を年代順に並び替え，明治政府は先に国内政策を充実させようとしたことに気付く。

陸奥宗光が不平等条約を改正することができたのは，国内の政治の仕組みを整えつつ，軍事力の高まり，産業･科学の発達などにより日本が世界に認められる国になっていったことを背景に，世界の情勢をよく読みながらねばり強い交渉を重ねたからである。

６　本時　１／６

平成２１年１０月１９日

指導者 松田 博光

場所 ６年１組教室

７　本時の目標

○　資料や年表から，自分なりに気付いたことや思ったことを考えて発表することができる（関心･意欲･態度）

○　不平等条約を改正するのは国民の強い願いであるにも関わらず，長い年月を要したことと，陸奥宗光が治外法権の廃止に成功することができたという事実とを比べて，学習問題をつくることができる（思考･判断）

８　本時指導に当たって

本時では，ノルマントン号事件の資料と条約改正までの年表をもとに，学習問題をつくる。より追究意欲を持続できるような学習問題をつくるために，次の手だてをとる。

・ノルマントン号事件について話し合い，同じ日本人として「不平等条約を改正したい」という気持ちを共感的に理解する。さらに少女暴行事件･ハートレー事件･千島艦事件･ウェブスター事件について知り，条約改正への思いをさらに高める。

・条約改正までの年表を２段階（前段：改正交渉失敗期・後段：改正交渉成功期）で提示する。

①岩倉具視・寺島宗典・井上馨・大隈重信・青木周蔵までの改正失敗の事実を確認し，なぜ改正できなかったのかを交流し，改正の難しさについて考えを深める。

②「改正は難しい」という考えになっている子ども達に，陸奥宗光が治外法権の廃止に成功した事実を知らせ，「なぜ陸奥宗光は成功したのだろう？」と考えを持たせることで学習問題を考える。

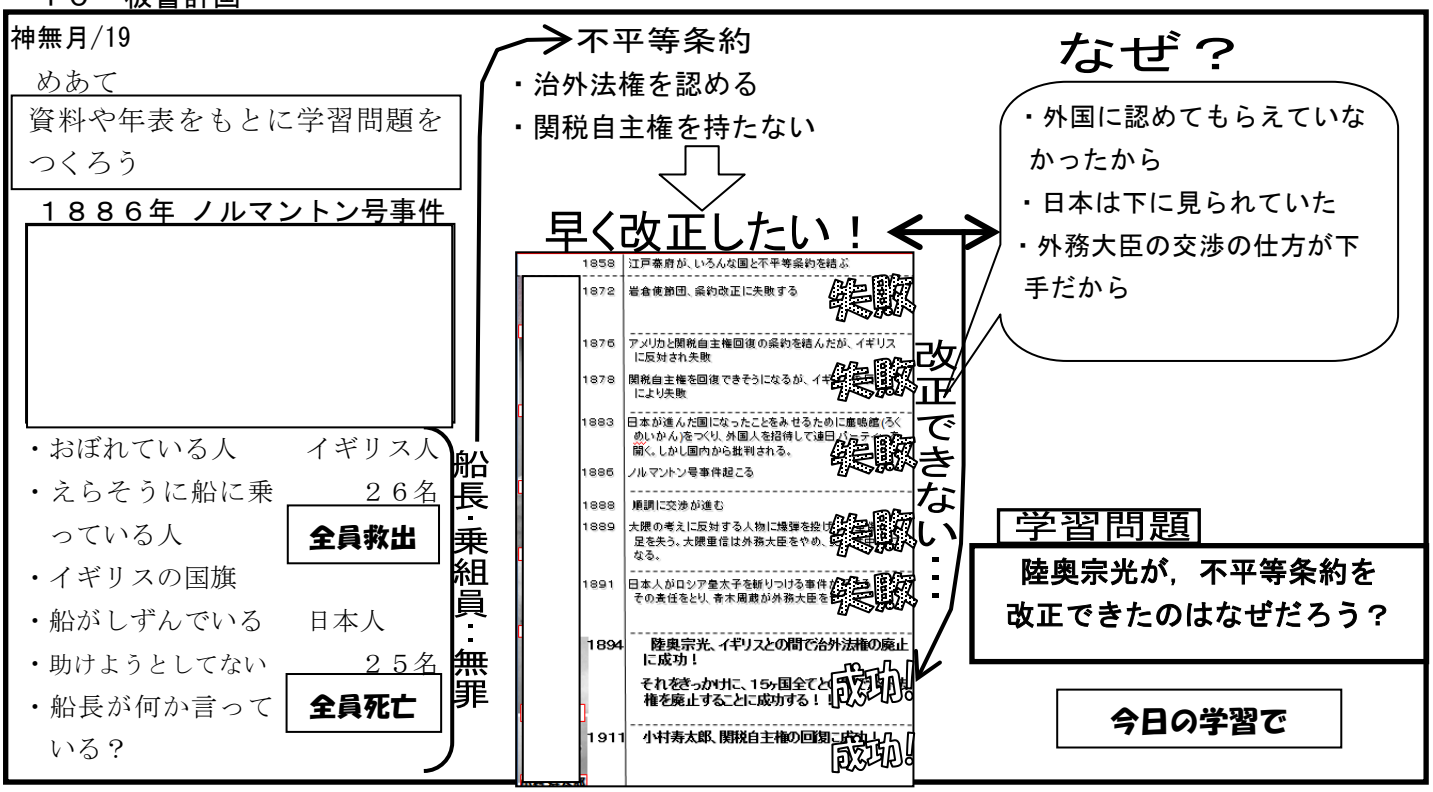
９　本時の展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点（○）
１　地図帳でノルマントン号事件が起きた場所（和歌山県勝浦）を探し，本時のめあてを確認する。 ノルマントン号事件の風刺画 めあて 資料や年表をもとに，学習問題をつくろう	○　歴史学習でも，本時と関係のある地名を探す活動を取り入れるなど，日常的に地図を読み取る能力を高めることができるようにする。
２　ノルマントン号事件をはじめとする事件の概要とその裁判の判決結果について知り，不平等条約を改正したいという気持ちを高める。 （１）風刺画を見て気付いたことや思ったことを交流し，事件の概要を知る。 （気付いたこと･思ったこと） ・おぼれている人がいるよ ・えらそうに船に乗っている人がいる ・イギリスの国旗があるね ・遠くで大きな船がしずんでいるよ ・溺れている人を助けようとしてないよ ・そんなのおかしいよ！ （事実を伝える） イギリス船 ノルマントン号沈没 ･イギリス人 26 名 →全員救出 ･日本人 25 名→全員死亡 船長以下全員無罪	○　どの子どもも発表しやすいように，ノートに書かせるようにする。 ○　同じ日本人として，「条約を改正したい」という気持ちを共感的に持たせるようにする。
（２）少女暴行事件･ハートレー事件･千島艦事件･ウェブスター事件について知る。 ・なんで無罪になったりするんだろう？ ・ひどい ・日本人がかわいそうだ	○　「条約を改正したい」という思いを，さらに高めて追究意欲につなげる。なお，ここでは不当な判決があったことを知ることがねらいなので，個々の事件に深入りしないようにする。

（３）なぜ，こんな判決になったかについて話し合う。 ・不平等条約があるから ・日本人が裁判できない ・外国の人に都合のいい判決が出る	○　不平等条約について想起しやすいように，前々小単元の学習を掲示しておく。
２　条約改正までの歩みから学習問題をつくる。 年表① 条約改正までの歩み	
（１）岩倉具視・寺島宗典・井上馨・大隈重信・青木周蔵までの改正失敗の事実を確認し，なぜ改正できなかったのかを考える。 ・早く改正したいのに，難しいんだね。 ・ノルマントン号事件の前から改正の努力をしていたんだね ・外国に認めてもらえていなかったのかな？ ・日本は下に見られていたんだと思う ・外務大臣の交渉の仕方が下手なんじゃないかな	○　「改正したい」という気持ちが高まっている子ども達に，改正交渉が失敗続きである現実に出会わせ，その理由を，既習などをもとに考えさせる。
（２）陸奥宗光による治外法権の廃止の交渉が成功した事実を知り，学習問題をつくる。	○　改正の難しさについて考えを深めた子ども達に，陸奥宗光らが交渉成功した事実と出会わせ，その驚きを学習問題につなげる。

学 習 問 題

陸奥宗光が，不平等条約を改正できたわけは何だろう？

６　今日の学習をふりかえる。	○　学習問題に対する予想や，分かったこと，思ったことについて書かせるようにする。

１０　板書計画